

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
※その他不適切と判断せざるをえない箇所。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

1 (小説) 採点基準 (合計≒50点)

問一 4点 イ

問二 6点 (各3点) X≒ハ Y≒ロ

問三 12点

(模範解答例)

言葉の謎めいた内容によって、うすうす感じていたモナリサの不気味さが増し、画を買ったときの値段よりも安く売り払おうと決意する結果を促した(59字)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 言葉の謎めいた内容によって、…2点

B うすうす感じていたモナリサの不気味さが増し…5点

C 画を買ったときの値段よりも安く売り払おうと決意する…5点

* C「自宅に置くことをやめた」…2点

問四 4点 二

問五 10点

(模範解答例)

老人の孫に対する愛情を表すだけでなく、懸物にまつわる老人の機嫌の善し悪しの程度を示す指標としての役割をも果たしている。

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 老人の孫に対する愛情を表すだけでなく…3点

B 懸物にまつわる老人の機嫌の善し悪しの程度を示す指標…7点

問六 10点

(模範解答例)

懸物を買った好事家が懸物を室内で丁寧に扱っている様子を見て、自分以上に大切にしてくれると思ったから。

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 物を買った好事家が懸物を室内で丁寧に扱っている様子を見て…5点

B 自分以上に大切にしてくれると思った…5点

問七 4点 ホ

大問二 問一

基準 配点.. 2点×4

■模範解答 ※解答例通り（漢字書き取り問題）

- 1 如実
- 2 匹敵
- 3 広範（広汎）
- 4 検索

大問二 問二

基準 配点.. 5点

■模範解答 ※解答通り（記号選択問題）

□

大問二 問三

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A
新聞や雑誌で

B
使われている言葉の質が

C
低下しているという状況。(29字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…三十字以内 十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 新聞や雑誌で…3点

- ・ここでの「場」が「新聞や雑誌」であることについて説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 使われている言葉の質が…3点

- ・要素Aにおける「言葉の質」について説明していないものは、要素B加点数なし

■要素C 低下しているという状況…3点

- ・傍線部の「劣化」を言い換えていないものは、要素C加点数なし

大問二 問四

■形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 9点

■模範解答

A
書きことばと話しことばは

B
言語空間において

C
互いに影響を与え合っているということ。(39字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…四十字以内 十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 書きことばと話しことばは…3点

- ・「何が」を「書きことばと話しことば」と説明していないものは、要素A加点数なし

■要素B 言語空間において…3点

- ・「書きことばと話しことば」が使われる空間を説明していないものは、要素B加点数なし
- ・同意例…日常生活空間で

■要素C 互いに影響を与え合っているということ…3点

- ・『回路』でつながっている「を言い換えていないものは、要素C加点数なし

大問二 問五

基準 配点.. 7点

■模範解答 ※解答通り(記号選択問題)

二

大問二 問六

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点… 12点

■模範解答

A 「多様であること」とは、区別が曖昧になったニュースとワイドショーが

B どちらも存在することで、

C 「多様性を認める」ことは、ニュースとワイドショーは別のジャンルに属し、

D その違いを理解した上でそれぞれの存在価値を認めるということである。(114字)

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十字以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「多様であること」とは、**区別が曖昧になったニュースとワイドショーが…3点**
・「多様であること」として、「ニュース」と「ワイドショー」の「区別が曖昧」であるという説明をしていないものは、要素A加点数なし

■要素B **どちらも存在すること…3点**

・要素Aの二つが「存在する」という説明をしていないものは、要素B加点数なし

■要素C 「多様性を認める」ことは、**ニュースとワイドショーは別のジャンルに属し…3点**

・「多様性を認めること」として、「ニュース」と「ワイドショー」が「別」であるという説明をしていないものは、要素C加点数なし

■要素D **その違いを理解した上でそれぞれの存在価値を認めるということである…3点**

・要素Cの二つの「それぞれの価値を認める」という説明をしていないものは、要素D加点数なし

★2022年度第3回 早慶上智・難関国公立大模試

三 (古文)『十六夜日記』 採点基準 ※50点

問一 甲 「暁」の読みを、ひらがな、現代仮名遣いで記せ。 【1点】

〔正解〕 あかつき

〔ポイント〕

【1点】 ※「あかとき」でもよしとする。「あかつき・あかとき」以外は×。

問一 乙 「三位」の読みを、ひらがな、現代仮名遣いで記せ。ただし、「さんい」以外の読みを答えよ。

【1点】

〔正解〕 さんみ

〔ポイント〕

【1点】 ※「さんみ」以外は×。「さんい」は×。

問一 丙 「手習」の読みを、ひらがな、現代仮名遣いで記せ。 【1点】

〔正解〕 てならい

〔ポイント〕

【1点】 ※「てならい」以外は×。「てならひ・てすさび」等は×。

問二 二重傍線部①～⑤の語のうち、品詞が異なるものを一つ選び、記号で答えよ。【3点】

[正解] ④

[ポイント]

【2点】※「④」以外は×。

問三 a 空欄に入る語句として最も適当なものを、一つ選び、記号で答えよ。【3点】

[正解] イ

[ポイント]

【3点】※「イ」以外は×。

問三 b 空欄に入る語として最も適当なものを、一つ選び、記号で答えよ。【3点】

[正解] ホ

[ポイント]

【3点】※「ホ」以外は×。

問三 c 空欄に入る語として最も適当なものを、一つ選び、記号で答えよ。【3点】

[正解] ロ

[ポイント]

【3点】※「ロ」以外は×。

問四 (一) 傍線部を現代語訳せよ。 【4点】

※基本的に、全体的な意味のつながりに不具合があっても、各部分の訳があてれば、その部分の点は与えることとします。

〔傍線部〕

A | 涙も B | 文もかき C | 2 | あへず

〔解答例〕

A | 涙も拭いきれず B | 手紙も C | 2 | 十分に (B) | 書き (C) | きれ (B・C) | ない

〔採点方法〕

各要素単独採点。

〔字数〕

指定なし。

〔ポイント〕

A 【1点】 涙も〜かき〜ず ↓ 涙も拭い〜ず

※「涙を拭(ぬぐ)えない・涙を拭わない・涙を払えない・涙を払わない・涙をふけない・涙をふかない」等の意があれば【1点】。

B 【1点】 文もかき〜ず ↓ 手紙も〜書き〜ない

※「手紙を書けない・手紙を書かない」等の意があれば【1点】。

C 【2点】 あへず ↓ 十分に〜きれない

※AもBも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「十分に〜しない・〜しきらない・〜しきれない・〜できない・〜あげない」等の意があればよい。

問四 (2) 傍線部を現代語訳せよ。ただし、何から「遠ざかり果てて」いるのかがわかるように訳せ。

【4点】

※基本的に、全体的な意味のつながりに不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

【傍線部】

A | (補い) B | 遠ざかり果てて C 2 | 行ひめたる人なり

【解答例】

() すっかり () A | 姉君とは B | 疎遠になって C 2 | 仏道修行している人である

【採点方法】

各要素単独採点。ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

【字数】

指定なし。

【ポイント】

A【1点】(補い) ↓ 姉君とは

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点になっている場合は得点できる。

※「姉から」、または、「俗世から・俗世と」の意があればよい。

B【1点】遠ざかり果てて ↓ すっかり疎遠になって

※「遠ざかって・離れて・疎々しくなって」等の意があればよい。「すっかり・しきって・し果て

て」等の有無は不問。

C【2点】行ひめたる人なり ↓ 仏道修行している人である

※「仏道修行し」は「勤行し・仏道に帰依し」等でもよい。「し」は「行う・励む」等でもよい。この意がない場合は×。

※「仏道・仏教」の意がない「修行」は【マイナス点】。

※「〜ている」の意がない場合は【マイナス点】。

※「〜である・〜だ・〜です」等がない場合は【マイナス点】。

問四 (3) 傍線部を現代語訳せよ。 【4点】

※ 基本的に、全体的な意味のつながりに不具合があっても、各部分の訳があてれば、その部分の点は与えることとします。

【傍線部】

A2 そこはかとなきことどもを B2 聞こえたりし

【解答例】

A2 とりとめもないことなどを B2 申し上げていた

【採点方法】

各要素単独採点。

【字数】

指定なし。

【ポイント】

A 【2点】そこはかとなきことどもを ↓ とりとめもないことなどを

※ 「とりとめもない」「は」「どう」ということもない・たいしたこともない・何ということもない・とるに足ら(足り)ない」等でもよい。

※ 「どうしようもない・どうにもならない」等は 【1点】。

※ 「など」の有無は不問。

B 【2点】聞こえたりし ↓ 申し上げていた

※ 「申し上げた」の意があればよい。

※ 謙譲の意がなかったり、間違っている「言った・おっしゃった」は 【マイナス1点】

※ 「くた・くっていた」の意がない場合は 【マイナス1点】

※ 「くた」の後に続く箇所については不問。

問五 A 「あま」は掛詞である。何と何の掛詞か。それぞれ漢字を用いて二字以内で記せ。【各一点・計2点】

〔正解〕 A 尼 ・ B 海人（海士・蟹） 〔順不同〕
〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕（漢字を用いて）二字以内。

〔ポイント〕

※ A・Bは順不同。

A【一点】尼

※「尼」以外は×。「尼上・天・雨・あま」は×。

B【一点】海人（海士・蟹）

※「海人・海士・蟹」以外は×。「海女・天・雨・あま」は×。

問五 B 「よる」は掛詞である。何と何の掛詞か。それぞれ漢字を用いて二字以内で記せ。【各一点・計2点】

〔正解〕 A 夜 ・ B 寄る 〔順不同〕

〔採点方法〕 各要素単独採点。 〔字数〕（漢字を用いて）二字以内。

〔ポイント〕

※ A・Bは順不同。

A【一点】夜

※「夜」以外は×。

B【一点】寄る

※「夜」以外は×。「寄」は×。「よる」は×。

問六 傍線部「……」とあるが、「姫君」が涙を禁じ得ないと言うのはなぜか。五〇字以内で説明せよ。【6点】

〔傍線部〕 涙のかかるかな

〔解答例〕 **A2** 作者の手紙を見ると、**B2** 不慣れた土地に旅をしている作者の苦勞が察せられて、

C2 心配になってしまふから。(47字)

〔採点方法〕 各要素単独採点。ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔字数〕 五〇字以内。

〔ポイント〕

A【2点】 作者の手紙を見ると、

※**BもCもO点の場合は得点できない。ただし、誤字等でO点になっている場合は得点できる。**

※「手紙を見ると・手紙を読む」との意があれば【1点】。「玉章」のままは×。

※右の意がある上で「手紙」が「作者(妹・筆者・阿仏尼)」のものとわかる説明(解答全体から分かればよい)があれば【2点】。

※**B**や**C**の感情が生まれる原因として書かれていなければ×。

B【2点】 不慣れた土地に旅をしている作者の苦勞が察せられて、

※「不慣れた土地での苦勞が察せられる・旅の苦勞が思われる・厳しい環境が推量される・鎌倉での苦勞が思いやられる」等の意としてとらえられる内容があればよしとする。

※右の意がなく、「鎌倉(作者がいる場所)の風の音が聞こえる気がする」の意がある場合は【1点】。

※「磯を越える・波・激しい」等の意の有無は不問。

※手紙を読んだ結果として書かれていなければ【マイナス1点】。

C【2点】 心配になってしまふから。

※「心配になる(同情する・可哀想に思う)から」等の意があればよい。

※手紙を読んだ結果として書かれていなければ【マイナス1点】。

問七 傍線部「……」とあるが、ここには作者のどのような心情が表れているか。八〇字以内で説明せよ。
【9点】

〔傍線部〕 程も経ず返事し給へり。

〔解答例〕

A3 自分の手紙は、筆のおもむくまま、思うにまかせて書いたものであり、**B3** 急ぎと
いうことで中途半端な書きようになっていたのに、**C3** ほどなく返事をもらえて、
うれしく思う心情。(79字)

〔採点方法〕 各要素単独採点。ただし、条件が書かれている場合は、それに従って下さい。

〔字数〕 八〇字以内。

〔ポイント〕

A【3点】 自分の手紙は、筆のおもむくまま、思うにまかせて書いたものであり、

※ **Cが〇点の場合は得点できない。** ただし、誤字等で〇点になっている場合は得点できる。

※ 「気ままに（気軽に）書いたのに」の意が読み取ればよい。

B【3点】 急ぎということでも中途半端な書きようになっていたのに、

※ **Cが〇点の場合は得点できない。** ただし、誤字等で〇点になっている場合は得点できる。

※ 「半端な（書きかけみたいな・間に合わせの）書き方なのに」の意が読み取ればよい。

C【3点】 ほどなく返事をもらえて、うれしく思う心情。

※ 「ほどなく（すぐに）返事（手紙）をもらえて」の意がない場合は**【2点】**。

※ 「うれしい」は「感激する・思いが晴れる・申し訳ない」等でもよい。

※ 「すぐに返事を書かなければならないという気持ち」等は**X**。

問八 「作品名」 本文の作品名を、一つ選び、記号で答えよ。 【2点】

〔正解〕 ホ

〔ポイント〕

【2点】 ※「ホ」以外は×。

問八 「作者名」 本文の作者名を、一つ選び、記号で答えよ。 【2点】

〔正解〕 ハ

〔ポイント〕

【2点】 ※「ハ」以外は×。

2022年度(9月実施) 第3回 早慶・難関大模試 史記

四 (漢文) 採点基準 (合計 50点)

問一 各2点 8点

解答

a 〓と b 〓あたわざれば (あたわずんば) c 〓たちどころに
d 〓のみ

採点基準

* 歴史的仮名遣いは減点。

例 b 「あたはざれば」「あたはずんば」は1点。

問二 6点 完答

解答

甲 〓楚 乙 〓趙 丙 〓秦
甲 〓趙 乙 〓楚 丙 〓秦

問三 6点×2=12点

解答例

a 1点 b 2点
B 連れて行く人材は 外部には求めず、
c 2点 d 1点
私の食客門下の中から選べば、十分であろう。

採点基準

* a 「連れて行く」「同盟の交渉に行く」などはなくとも可。
* c 「食客」「門下」のどちらかでも可。

解答例

a 2点 b 2点 c 2点
c あなたは、私の門下になってから、何年ですか。

採点基準

* a 「先生」のままは0点。
* b 「私」は「平原君」「勝」も可。

問四 6点

a 1点

b 2点

c 3点

解答

きりの なうちゆうに きるがごとし

採点基準

* 現代仮名遣いになっているもの…減点各1点。「のう」「ちゆう」「おる」

* a 「きり」は「すい」も可。

* b 「ちゆう」の「ゆ」「は」「ちゆう」も可。

問五

8点

a 2点

b 3点

解答例

平原君の側近の者が、今までに毛遂のことを

c 3点

褒めたたえたことがないということ。

採点基準

* a 「平原君」は「勝」も可。

「側近」「臣下」「家来」のみは1点。

* b 「今まで」は「まだ」も可。

* c 「褒めたたえる」は「賞賛する」「称賛する」も可。

問六 10点

a 4点

解答例

他の人と同じ場で競わせてくれたならば、

b 4点

他の人よりも格別に秀でてしていることを

c 2点

証明してみせるということ。

採点基準

- * a 「競う」は「議論する」「戦う」「勝負をする」なども可。
- * a は広く、「採用される」意があれば2点とする。
- * a は「交渉に連れて行く」「身近に置く」など具体的ななら1点とする。
- * b 「他の人」は「他の食客」「他の随行員」「他の門下の者」も可。
- * b 「他の人よりも」はなくても可。
- * b は、ずば抜けたものである点が表現されていれば良しとする。
- * b 「活躍」「役に立つ」などは2点。
- * b ただ「良い」だけの場合は1点。
- * c 「証明する」は「示す」「現わす」なども可。

以上